

令和7年度大阪府食育推進計画評価審議会 議事概要

1 開催日時：令和8年3月17日（火）午後2時30分から午後4時30分

2 開催場所：国民會館大阪城ビル 12階 小ホール

3 出席委員：9名（委員定数11名、定足数6名であるため有効に成立）

出席委員：池上委員、上野委員、大川委員、清水委員、西島委員、藤原委員、森委員、
由田委員、鷺尾委員

4 議題

（1）第4次大阪府食育推進計画の進捗状況について

資料1：第4次大阪府食育推進計画 令和7年度PDCA進捗管理票

<審議結果>

・事務局案のとおり承認

<主な委員意見等>

○府の食育推進計画期間は12年と長い、国がR8年度に第5次食育推進基本計画を策定することに加え、社会情勢も12年間で変化する。府の計画も改定が必要と考えるが府としての意見を聞きたい。

府：大阪府では他の健康づくり関連計画と合わせ、計画期間を12年とし、中間評価を実施することとしている。その際には、府が実施する健康づくり実態調査の結果や社会情勢等を鑑みて点検・見直しをする予定。

○第45回全国豊かな海づくり大会は、地場産の魚食を広げる良いきっかけとなる。「おさかなマイスター」制度を活用する取組みや、高齢化が進んでいると思われる漁師の分野に若手が入り込める仕組みがあればいい。また、朝食欠食・野菜摂取・食塩の減少については、改善が進みにくいので、これまでの啓発に加え、コンビニ業界と連携して「ポイント制」にして朝食をとるような仕組みができないか。同様に、大阪産（もん）を増やすためにも、直売所のスタンプラリー等の制度をつくって、消費者を引き付けるような現実的な利益に結び付く工夫をしてはどうか。

○「共食」については、独居が増える中、Zoom等ネットを活用し、ゆっくり話をしながら一緒に食事することを「共食」と考えるのも一つのアイデアである。

○災害マニュアルの話があったが感染症対策も重要だが、災害後、1年くらい経過すると生活習慣病が増えるので、急性期・亜急性期・慢性期のように段階を踏んだ対応も検討しておくべき。

○食環境整備については、各自治体が一生懸命に取り組んでいるが、所得格差や勤務状況が異なる中、「自然に健康になれる食環境整備」といった方向に舵を取ろうとしている。（府下には多業種の飲食店があるため）急に変えることは難しいが、各団体の協力を得ながら少しずつ食塩摂取量を下げたいとするもの。また、府民の野菜摂取量は少ないため、健康のために望ましいものは摂取を促す取組みである。

○SNS については、インフルエンサーを活用し、インスタグラムにハッシュタグをつけてもらう等の工夫をして「おおさかE X P Oヘルシーメニュー」を発信してはどうか。

学生は、朝ギリギリまで寝ていて時間がなく、1時間目の授業前に教室でおにぎり等を食べる者が多い。学食で100円、150円の朝食を提供しても利用が少ない。こうした若者から変えていくにはSNSが有効だと思う。

○自転車に乗りながらパンを食べる子ども、しっかりと食べてくる子ども等様々。給食は、平等であるが、食に興味のない、一口くらいしか食べない子どもに対して徐々にしっかりと食べられるようにさせているのが現状。家庭の様子が見えない中、スーパーでは冷凍食品が多く、冷凍の野菜から栄養摂取できるか疑問に思う。また、塩分も朝晩の食事ですれくらいとっているのか疑問に思っている。家庭への啓発にも取り組んで欲しい。

⇒冷凍野菜の栄養価については、加工するため生鮮時に比べると下がるが、食べないよりは加工食品でも食べた方がよい。

⇒保育園児の食事については、近年の研究から家庭の所得に大きく影響されることが分かってきた。保育園でそういった子どもを救うような取組みも検討してもらえたらと思う。

○学校給食の取組みとして、R7年度は、中学生対象のフォトコンテスト「こんな朝食食べたいなあ。私の幸せ朝ごはん」というテーマで実施し、4,208人の応募があった。また、野菜摂取量の増加については、「こんな給食食べたいなあ。おいしく、楽しく野菜を食べよう」というテーマで、小学校5・6年生対象に栄養バランスやカロリーを考えた給食の献立を作ってもらい、2,554人の応募があった。

○給食のパンには、1.8%の食塩が含まれている。イヌリンを添加すると1%の食塩に下げることができる等の工夫を実施。また、地産地消の取組みとして、和泉市や岸和田市で旬に採れたたけのこを缶詰（一斗缶）にして、年間安定して供給している。地場で採れたたけのこを、地場の工場で作って地場で消費している。

○食生活改善推進員は高齢化が進んでいるが、集まって食事をしながら和やかな雰囲気の中で健康や食生活について意見を言い合い、学べる場というのは、本当に大切だと実感している。共食の話にもつながるが、引き続き大事にしていきたい。

○大阪府で作成した野菜の歌「野菜バリバリ元気っ子」をもっとスーパー等で流して広めていくべき。

(2)「食生活」に関するアンケート調査結果について（報告）

資料2：「食生活」に関するアンケート調査結果

<委員意見等>

○（野菜を食べない理由として「高いから」が多くなっているが）調査は今年1月に実施しており、野菜の値段は安くなっているはず。よって、「野菜は高い」という思い込みがあると推測される。

○煮物など野菜の調理方法が親から子へ伝わっていないのではないか。

野菜の調理方法については、サラダくらいしか思い浮かんでいないと思われる。野菜と健康、野菜と食文化を結び付けたり、調理方法等伝え方を工夫すると良いのでは。

○果物摂取については、皮をむけない学生が多く、刃物が危ないというのは分かるが小さいころから最低限のことはできるよう教えていかなければならない。それが食育である。

○(R2年から実施している)この調査の経年変化を見ていくことで食育の取組みの評価にも使えるのでは。また、クロス集計等の検討もお願いしたい。

○V.O.S.メニューの普及について、認知度が低い。スーパー等で啓発を行っているとのことだが、男性に比べて女性のほうが認知度が低く、寂しい結果を感じる。